

かざぐるま

35号
連携の風

SPECIAL 循環器内科カテーテル治療の最前線



TOPICS

- これからも地域の医療を支えるために
～新中期経営計画を策定いたします

CLOSE UP

- 人はなぜ転ぶのか? ～市民公開講座を開催しました
- 助産師外来(母乳育児支援)の対象者を拡大しました

INFORMATION

- 連携医療機関のご紹介『肝臓クリニック札幌』
- 新任医師紹介



市立 札幌病院

● 基本理念

すべての患者さんに対して
その人格・信条を尊重し
つねに“やさしさ”をもって診療に専心する

● 運営方針

- ① 患者さんの人格を尊重し、患者さんに信頼される医療を行います。
- ② 地域医療支援病院として、地域医療の充実・発展に貢献します。
- ③ 高度急性期・急性期医療を担い、安全で質の高い医療を提供します。
- ④ 自治体病院として他の医療機関では対応が困難な政策医療を提供します。
- ⑤ 医療技術の向上を図り、優れた医療従事者を育成します。
- ⑥ 全職員が連携し、信頼しあう、明るく誇りの持てる「チーム市立札幌病院」を作ります。
- ⑦ 公営企業として健全な財政運営を図ります。

循環器内科カテーテル治療の最前線

不整脈に対するカテーテルアブレーション

循環器内科部長 横式 尚司

カテーテルアブレーション治療開始後、初期50症例(図1)では、心房細動が7割を占めていました。難治性の心室頻拍にて、CCU(ハートQQ)にご紹介いただいた患者さんは、緊急治療(図2)を終え、自宅退院されました。引き続き、よろしくお願い致します。

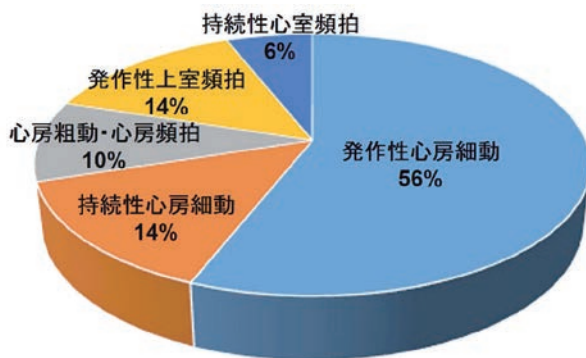
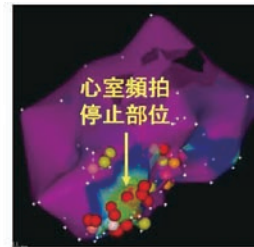


図1. カテーテルアブレーションの内訳



上段：三次元マッピングによる低電位領域の検出。

下段：QRS波より70ms先行した異常電位を検出。同部位への通電にて心室頻拍は停止した。

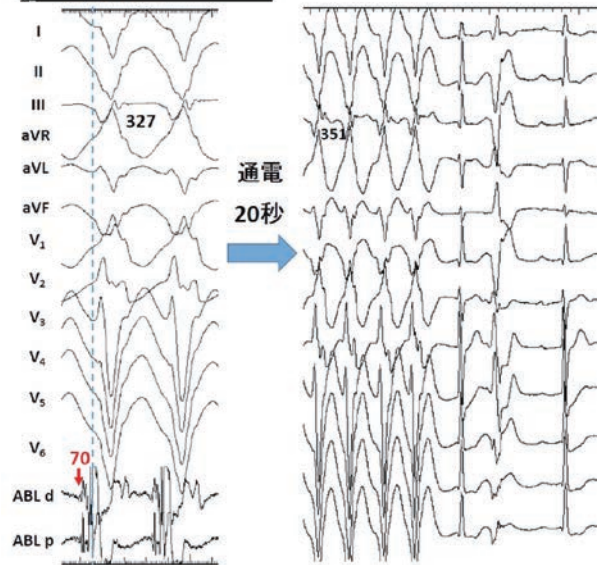


図2. アブレーションによる心室頻拍の停止

経皮的冠動脈インターベンション

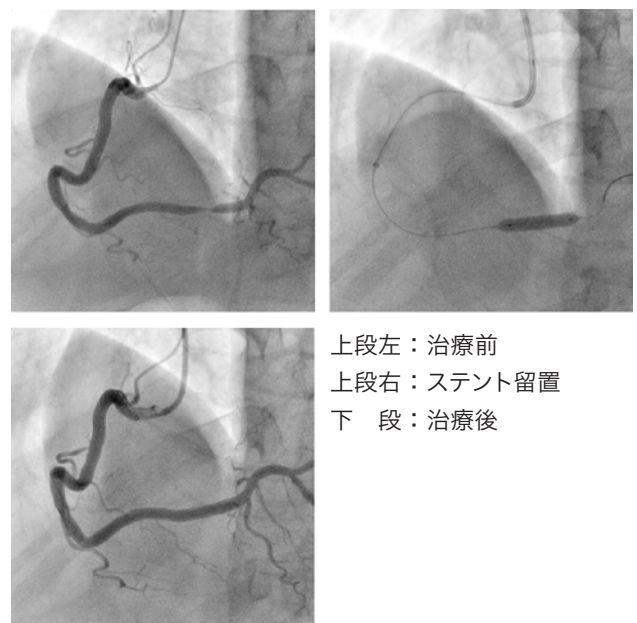
循環器内科副部長 牧野 隆雄

当院では経皮的冠動脈インターベンション(PCI)は急性冠症候群(急性心筋梗塞、不安定狭心症)、安定狭心症等に対し、約250例/年程度、施行しております。

ステント留置、石灰化病変などに対するロータブレードなどを行っております。

図3は地域の先生から急性冠症候群の疑いで紹介された症例です。搬送後、緊急冠動脈造影を施行し、右冠動脈の高度狭窄を認めたため、ステント留置を行い、心筋逸脱酵素の上昇もなく、翌日退院されました。

24時間365日対応しておりますので、今後ともよろしくお願い致します。



上段左：治療前
上段右：ステント留置
下段：治療後

図3. 不安定狭心症に対するPCI

末梢動脈疾患インターベンション

循環器内科副医長 檀浦 裕

糖尿病や透析患者の増加に伴い、**末梢動脈疾患（閉塞性動脈硬化症）**の患者数は増加傾向にあります。当院では間欠性跛行の患者さんはもちろんのこと、足に傷のある**重症虚血肢**の患者さんも、**下肢救済センター**として他科との協力の元で積極的な治療に取り組んでおります。

皆様からのご紹介を沢山頂きました結果、2018年の血管内治療の治療件数は337件（図4）と、全国でも有数の症例数となりました。お困りの患者さんがいらっしゃいましたらご紹介の程、宜しくお願い申し上げます。

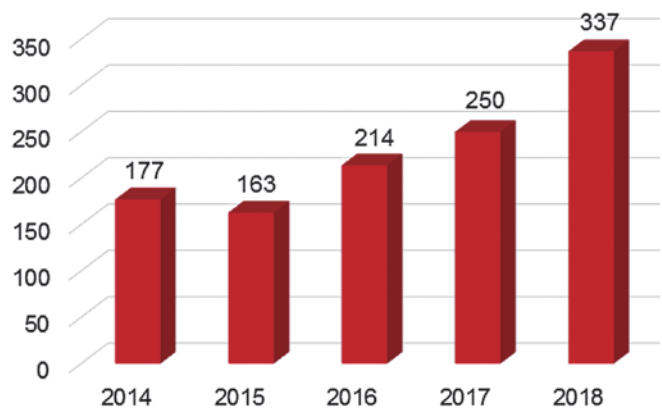


図4. 当科での血管内治療（EVT）の治療件数の推移

経カテーテル大動脈弁治療 TAVI&BAV

循環器内科副医長 浅川 直也

大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル治療を始めました。ハートチームを結成し、院内の体制が整いましたので、TAVI施設認定を申請しました。

近日中に当院でも**TAVI実施可能になる予定**です。

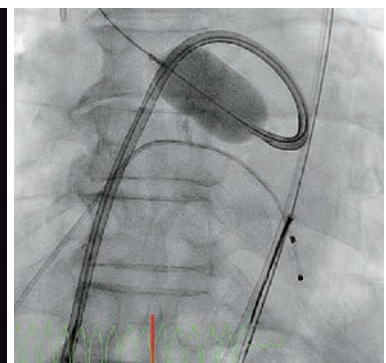
また、透析などTAVIの適応とならない高度大動脈弁狭窄症の患者様に対して、**BAV（経カテーテル的バルーン大動脈弁形成術）**を行っております。

特に**経中隔による順行性BAV**は大口径のシースを動脈に挿入する必要がなく、出血性合併症が少ないです。局所麻酔のみで通常の血管造影室でも施行可能で、TAVI/AVRへのブリッジとしても有効です。

TAVI・BAVの開始に伴い、救命救急、カテーテルによる低侵襲治療に広くアプローチしていく方針で



SAPIEN3®
経カテーテル生体弁



イノウエバルーンによる
より低侵襲な順行性BAV

ございますので、引き続きご支援、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

【連絡先】 ☎060-8604 札幌市中央区北11条西13丁目1-1

TEL:011-726-2211(代表) FAX:011-726-7912

【緊急時】 CCU(ハートQQ) TEL&FAX:011-736-8199(24時間)

これからも地域の医療を支えるために ～新中期経営計画を策定いたします。



当院は、2013年8月に自治体病院として道内初の「地域医療支援病院」の承認を受けて以来、これまで患者さんやそのご家族、そして地域の医療機関の皆様の期待に応えるために、高度急性期医療を提供する地域完結型医療の実現を目指してまいりました。

そのためには、健全で計画的な病院運営を行う必要があることから、2015年4月に「市立札幌病院 新ステージアッププラン」を策定し、このプランを踏まえて現在病院経営を行っておりますが、このたび新しい中期経営計画を策定しますので、お知らせいたします。

新しい計画では、高度急性期病院として、そして地域医療支援病院として地域の医療機関を支えることなど、当院の果たすべき4つの役割を掲げました。そして、この役割を果たすために、他の医療機関からの受け入れ要請を断らない医療を実践することや、地域の医療機関と緊密な連携体制を構築することなど6つの基本目標を定め、それぞれに具体的な取組項目を掲載いたしました。

この計画は、2019年度から6か年の当院の経営の基礎となるものでありますので、この計画を着実に実行することを通して、これからも引き続き地域の医療を支えてまいります。

札幌市病院事業管理者
市立札幌病院長 **関 利盛**

●市立札幌病院の基本理念・使命・役割

〔基本理念〕

すべての患者さんに対してその人格信条を尊重し、つねに“やさしさ”をもって診療に専心する

使命 市民のため、「最後のとりで」として、地域の医療機関を支える

役割

- ①高度急性期病院として地域の医療機関を支える
- ②地域医療支援病院として地域の医療機関を支える
- ③北海道・札幌市の将来の医療を担う人材を育成する
- ④良質で安心できる医療・サービスを安定的に提供する

基本目標

- 1. 市民の命を守るため、他の医療機関からの受け入れ要請を断らない医療を実践します
- 2. 地域の医療機関と緊密な連携体制を構築します
- 3. 医療を担う人材を育成するとともに、先進医療に貢献します
- 4. 医療の質を常に向上させます
- 5. 患者サービスを充実させ、より快適な療養環境を実現します
- 6. 業務の効率化を徹底し、健全な財務基盤を確保します

※基本理念：職員の行動規範

※使命：市立札幌病院の存在意義や社会に対してどのように貢献すべきかを明確化したもの

※役割：使命を果たすために具体的に担うべき役割

主な取組事項のご紹介

地域の医療機関からの受け入れ要請を断りません

- Dr. to Dr.での受け入れ要請を断らない体制づくりを進めます。具体的には、応需・不応需の状況を把握し、不応需の場合は紹介元の医師に状況を説明するなど適切なフォローアップを行います。
- 救急病棟を含めた病院全体のベッドコントロールの強化を行い、患者の柔軟な受け入れを進めます。

地域の医療機関と緊密な連携体制を構築します

- 返書を徹底するなど、紹介元の医療機関に対するフォローアップを強化します。
- 予約枠の拡大を行い、紹介のしやすい環境を整えます。病状が安定した患者は、地域の医療機関へお戻しし、地域医療支援病院としての役割を着実に果たしてまいります。
- 当院のCT、PET-CT、MRI、SPECT等の高度医療機器を、地域の医療機関にさらにご活用いただけるようPRに努めてまいります。
- 地域の医療機関のご要望を定期的に確認し、院内の改善につなげていきます。

患者サービスを充実させ、より快適な療養環境を実現します

- 「患者サポートセンター（仮称）」を設置し、入院から手術、退院までの流れをより円滑化します。
- 入院病棟のインターネット環境（Wi-Fi）を整備し、利便性の向上に努めます。

この計画は、パブリックコメント等を経て、4月に策定する予定です。



人はなぜ転ぶのか？ ～市民公開講座を開催しました。

昨年11月25日(日)に、「人はなぜ転ぶのか？～ 医師と理学療法士が教える予防のイロハ～」をテーマに市民公開講座を開催しました。

当日は、当院神経内科部長の田島康敬医師を講師として、加齢による転倒リスクやパーキンソン病などの疾病についての講演を行いました。また、リハビリテーション科高橋拓真理学療法士より、転倒の原因や高齢者の身体機能についての解説を行い、最後に真屋大気理学療法士の指導のもと、転びにくい身体づくりのための運動を参加者のみなさんに行っていました。

当日は、気温が低い中にもかかわらず、約90名の参加がありました。

終了後のアンケートでは、「動画や画像を多く使って分かりやすかった」、「具体的な内容を丁寧に説明していただいた」など、高い評価をいただくとともに、認知症や介護などについて講演してほしいという御意見がありました。

当院では、市民のみなさんの健康増進や疾病予防に少しでもお役に立てるように来年度からも回数を増やして公開講座を開催したいと考えております。



たくさんの市民の方に受講いただきました



講演を行う田島医師

演 題

- 1 加齢による転倒について
市立札幌病院リハビリテーション科 理学療法士 高橋 拓真
- 2 どうしてころぶの？神経内科に聞いてみよう その理由(わけ)と対策(ふせぎかた)
市立札幌病院 神経内科部長 田島 康敬
- 3 転びにくい身体と環境づくり
市立札幌病院リハビリテーション科 理学療法士 真屋 大気

助産師外来(母乳育児支援)の対象者を拡大しました

当院、助産師外来は、2016年から妊産褥婦にとって安全で安心できる出産・育児環境の整備をめざして開設しました。産後ケアに関わる母乳育児支援は「当院で出産した母親、産後1か月まで」を対象としていましたが、①当院で出産した母親 ②新生児内科・小児科に児が入院中の母親 ③当院に入院予定の授乳婦と変更し、いずれも産後の期間は限定しないことにしました。日本助産師評価機構のアドバンス助産師認定を受けた助産師が、アドバイスやケアを行います。核家族化などや相談窓口が少ない中で、育児不安を抱えながら育児をしている方の力になればと考えています。ぜひ、ご活用ください。



連携医療機関のご紹介



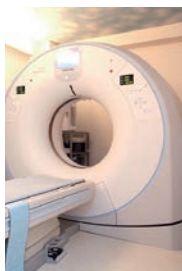
院長 川西 輝明

皆さんこんにちは。肝臓クリニック札幌院長の川西輝明です。当院は2017年5月1日に市立札幌病院向かいの桑園メディカルプラザ(サンエーアインビル)3階に開業した、まだ2年弱の新しいクリニックです。

恐縮ですが、まず私の医師としての経歴を簡単にご紹介しますと、大学卒業後に医師として最初に勤務したのは勤医協中央病院でした。当時は肝臓疾患で亡くなる患者さんも多く、「これはなんとかしないといけない」と日々思いながら検査や治療に取り組んでいました。その後、日本初の肝臓専門病院として設立された稲積公園病院、札幌緑愛病院を経て、肝臓クリニック札幌を開業するに至りました。開業した一番の理由は、これまでの医療活動で、早期発見・早期治療は勿論のこと、地域への検診活動や医療講演を通じた啓発活動を並行して行うことが大切であるということを感じていたからです。多くの方が肝炎検査を受けて必要な方は早く治療を受けて欲しい、肝臓疾患がある方には安心して受診出来る環境を提供したいと考えていました。そのため受診されたその日のうちに出来るだけ検査結果をお伝えすることを目指しており、肝臓疾患を中心に検査する機器を充実させています。肝がんの診断に役立つCTや肝臓の硬さも計測出来る高性能のエコーなどを導入しています。



腹部超音波装置



マルチスライスCT(16列)



医療法人社団 水色の木もれ陽

肝臓クリニック札幌

肝臓内科 消化器内科 内科

また当クリニックには最大で100人が収容出来る研修センターを設けました。医療講演のみならず、病気で悩んでいる患者さんの会を開催したり、様々な職種の研修の場としてもご活用頂いています。主な担当疾患は、脂肪肝、脂肪肝炎、ウイルス性肝炎を中心とした慢性肝炎、肝硬変、肝がん、食道静脈瘤ですが、肝疾患は睡眠時無呼吸症候群、高血圧、糖尿病や、他にもさまざまな症状があらわれることがありますので留意しています。



研修センター

市立札幌病院との連携ですが、開業以来入院治療が必要な患者さんをご紹介させて頂いておりますが、非常にスムーズにお受け入れを頂いており、ご対応頂いている先生方に心よりお礼申し上げます。開放型病床を利用させて頂くことで、私も継続して診療に携わることが出来ますし、何より市立病院に入院出来ることで患者さんが安心出来るというのが一番のメリットではないかと感じています。すずらんネットを利用出来るため、現在の治療状況をすぐに把握出来ますし、非常に有難いことです。今後も市立札幌病院との連携を継続させて頂き、地域の皆様が笑顔に満ちた豊かな人生を送れるようにお役にたてればと願っています。



定期的な肝臓チェックは
肝臓病の早期発見に繋がります
生活習慣病などについてお気軽にご相談ください

診療案内

	月	火	水	木	金
午前9時～12時	●	●	●	●	●
午後1時～4時	●	●	●	●	●

アクセス



〒060-0011
札幌市中央区北11条西15丁目2-1
サエービル3階(桑園がイビル3F) ☎ 011-708-8080

新任医師紹介

いたがき ゆうき
板垣 有紀

救命救急センター

地域に貢献できるよう
努めて診療にあたります。



はらや けんたろう
原谷 健太郎

整形外科

地域の皆様に貢献できる
よう頑張ります。
よろしくおねがいします。



うかい りょう
鵜飼 亮

脳神経外科

12月から勤務しております。
地域医療の推進に向け
尽力致します。よろしく
お願い致します。



『かかりつけ医制度』の推進を強化しています。

市立札幌病院は地域医療支援病院として、地域の医療機関と連携し「地域完結型医療」を推進しております。そのため、病状が安定した外来患者さんには、「かかりつけ医」へご紹介をして、診療の継続をお願いしております。また、病状の変化や検査が必要になった場合は当院へご紹介をお願いいたします。今後ともシームレスな診療に向け、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



平成30年度地域医療支援病院実績報告 (平成30年4月1日～平成31年1月31日)

●医療機器共同利用実績

	H30年4月～ H31年1月 医療機器別	共同利用 医療機関 実数
PET-CT	10	7
CT	367	39
MR I	259	38
超音波	46	14
骨塩定量	86	4
消化器内視鏡	40	17
RI	171	21
その他	2	2
全医療機器計	981	142

●救急患者件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	13月	計
救急患者数	556	579	569	698	706	754	680	670	766	849	6,827

●紹介率・逆紹介率

	計
初診患者数	12,536
紹介患者数	10,227
紹介率(%)	81.6%
逆紹介患者数	13,734
逆紹介率(%)	109.6%

●開放型病床利用

	計
延べ共同利用医療機関数	18
延べ利用患者数	274
病床利用率(%)	0.16%

『Dr to Dr 患者紹介専用ダイヤルをご活用ください』

～紹介する診療科に迷う場合は「臨床研修センター」をご指定ください～

“緊急である”“困難症例である”等の事情から、通常の紹介経路では受入れに時間を要するケースに対応するため、2016年8月に外部の医師から当院の医師へダイレクトに繋がる『Dr to Dr患者紹介専用ダイヤル』を開設しました。2年半が経過した現在も月平均80件程度のご利用があり、順調に稼働しております。地域の先生方からは、「指定した診療科や医師へ直接繋がるのが良い」と好評をいただく一方で、「症例によって指定する診療科に迷う」とのご意見が寄せられております。そのような場合は、ぜひ「臨床研修センター」をご指定ください。当センターは、研修医と経験を積んだ各診療科の指導医が共に診療にあたる、いわゆる総合診療科としての役割も担っておりますので、安心して患者さんをご紹介ください。今後も、『Dr to Dr患者紹介専用ダイヤル』をご活用ください。



Dr to Dr 患者紹介
専用ダイヤル

TEL: 011-788-6570 (月から金 [祝日除く] 8:45～17:15)

ホームページもご利用ください

市立札幌病院

